

まちづくり交付金 事後評価シート  
星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区

平成20年12月

神奈川県横浜市

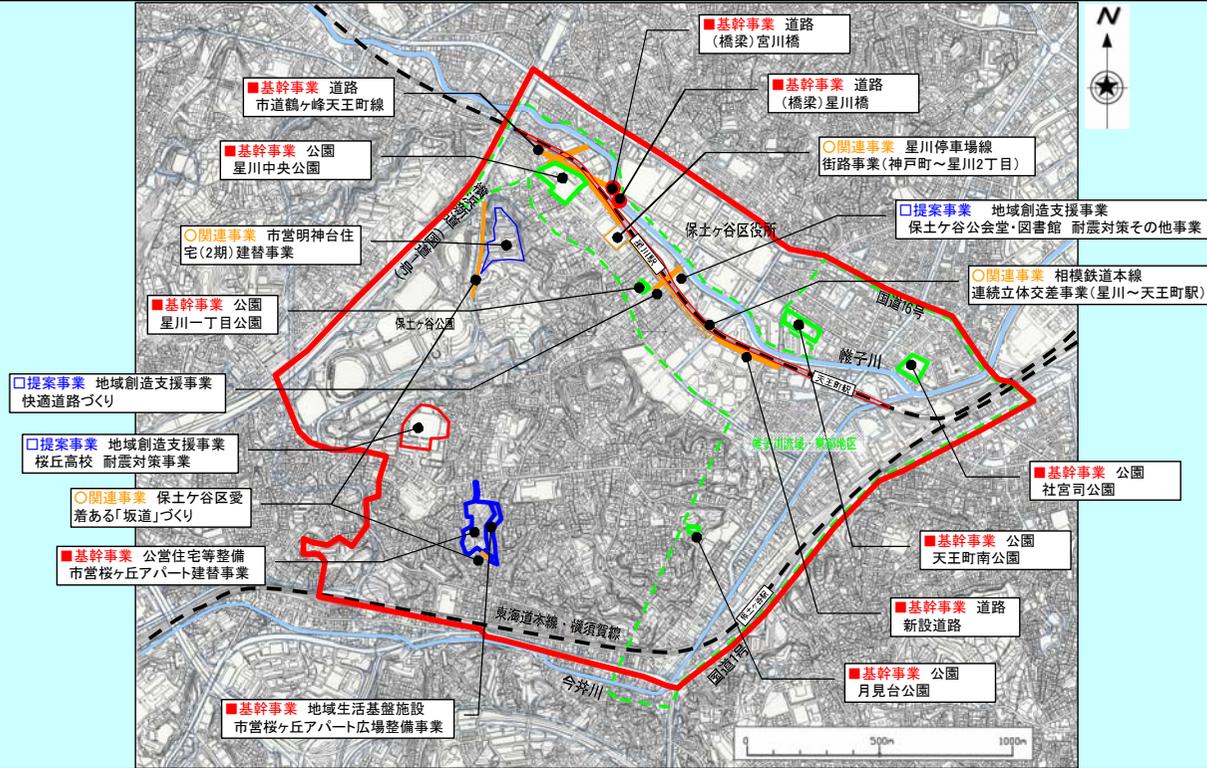
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	神奈川県		市町村名	横浜市		地区名	星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区			面積	366ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	4,844百万円	国費率	0.4						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(市道鶴ヶ峰天王町線、新設道路、市道鶴ヶ峰天王町線・宮川橋、市道三ツ沢306号線・星川橋)、公園(帷子川流域・東部地区)、公営住宅等整備(市営桜ヶ丘アパート建替事業)											
			提案事業	地域創造支援事業(保土ヶ谷区心部快適道づくり事業)											
	当初計画から削除した事業		基幹事業	道路(市道三ツ沢232号線・川田橋) 公営住宅等整備(借上型市営住宅整備事業)	削除/追加の理由 関係権利者との合意が得られず事業中止 民間事業者から事業取止めの届出があったため削除				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響は軽微						
			提案事業	なし											
	新たに追加した事業		基幹事業	地域生活基盤施設(市営桜ヶ丘アパート広場整備事業)	住宅地内の歩行者空間の確保及び周辺地域とのネットワークを確保するため				指標「駅利用者数の増加」が図れる						
			提案事業	地域創造支援事業(桜丘高校耐震対策事業)、 地域創造支援事業(保土ヶ谷公会堂・図書館耐震対策その他事業)	災害時に利用が予定されている公共建築物の耐震性能を確保するため				指標「地域防災関連施設の耐震化率」を設定						
交付期間の変更		当初	平成16年度～平成20年度	交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	指標1	バリアフリーの関心度	割合	1	基準年度	H16	2割増	H20	モニタリング	評価値	12割増	○	あり なし	住宅事業等の整備により満足度が向上した。	平成22年2月
	指標2	駅利用者数の増加	人/日	116,700	H15	122,500	H20			123,000	○	あり なし	大規模な住宅建替え事業等により利用者数が増えている。	平成22年7月	
	指標3	区民祭り等のイベント開催数	回/年	—	—	2回/年	H20			1回/年	×	あり なし	● 運動会、お祭り等地域行事が充実している中、新たなイベントが立ち上がりにくい状況。	平成22年5月	
	指標4	地域防災関連施設の耐震化率	%	61	H18	80	H20			94	○	あり なし	耐震化工事が順調に進んだことにより、耐震化率が向上した。	平成21年5月	
	指標5											あり なし			
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	その他の数値指標1	星川駅利用者数の増加	人/日	23,265	基準年度	H15			モニタリング	評価値	28,000		あり なし	星川駅周辺を中心とした住宅事業等が進んだため、星川駅の乗降客数が増えた。	平成22年7月
	その他の数値指標2	公園の整備に関する満足度(横浜市民意識調査)	%	11	H15					26		あり なし	帷子川流域・東部地区の公園整備が進んだため満足度が高くなった。	平成22年2月	
	その他の数値指標3														
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・踏切前後の道路を拡幅したことにより、歩行者の安全性が向上した。</li> <li>・公園の計画時に地域住民の意見を取り入れ、使い勝手のいい公園が完成した。</li> </ul>														
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	公園計画時における地域住民との話し合い。					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も公園計画時には地域住民の意見を取り入れていく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

## 様式2-2 地区の概要

星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区(神奈川県横浜市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
鉄道の高架化やバリアフリー化によって、人にやさしい街づくりを進めることにより、人であふれ、にぎわいのある住商のバランスの取れた魅力ある地域拠点づくりを進める。	バリアフリーへの関心度	単位: 割合	1 H16	2割増 H20 1.2割増 H20
	駅利用者数の増加	単位: 人/日	116,700 H15	122,500 H20 123,000 H20
	区民祭り等のイベント開催数	単位: 回/年	—	2回/年 H20 1回/年 H20
	地域防災関連施設の耐震化率	単位: %	61 H18	80 H20 94 H20



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩道の拡幅により歩行者の安全性が確保され、駅へのアクセス機能が強化された。</li> <li>市営住宅の整備によりバリアフリー化された住環境を提供することができ、バリアフリーへの関心が大幅に向上した。</li> <li>地域防災関連施設の耐震化率向上により、災害時の安全性が高まった。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>駅へのアクセス機能を強化するため、連続立体交差事業とあわせて、駅前広場や周辺道路等の整備を推進する。</li> <li>バリアフリーへの高い関心を維持しながら、今後想定される高齢化社会に対応したバリアフリー対策を進める。</li> <li>エリア内の地域防災関連施設の耐震化率100%を目指す。</li> <li>連続立体交差事業の早期完成により、鉄道の高架化と街づくりを進める。</li> </ul>

都市再生整備計画 フォローアップ報告書  
星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区

平成23年2月

神奈川県横浜市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	バリアフリーの関心度	割合	1	2割増	12割増	確定 見込み ●	○	あり なし	10割増	H22年2月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	住宅整備等の進捗により満足度が向上した。
指標2	駅利用者数の増加	人/日	116,700	122,500	123,000	確定 見込み ●	○	あり なし	118,612	H22年7月	△	<input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	大規模業務系施設のある天王町駅利用者数の減少が影響した。
指標3	区民祭り等のイベント開催数	回/年	—	2回/年	1回/年	確定 見込み ●	×	あり なし ●	4回/年	H22年5月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	公園の整備に伴い地域活動が活性化された。
指標4	地域防災関連施設の耐震化率	%	61	80	94	確定 見込み ●	○	あり なし	94	H21年5月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	耐震化工事が順調に進んだことにより、耐震化率が向上した。
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	星川駅利用者数の増加	人/日	23,265	/	28,000	確定 見込み ●	/	/	26,817	H22年7月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	星川駅周辺の住宅整備が進んだため、駅乗降客数が15%増えた。
その他の数値指標2	公園の整備に関する満足度(横浜市民意識調査)	%	11	/	26	確定 見込み ●	/	/	25	H22年2月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	帷子川流域・東部地区の公園整備が進んだため満足度が高くなった。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/		H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を持続させるために 行う方策</li> </ul>	駅へのアクセス機能の強化	・歩道の整備や踏切延長の縮小化工事を実施。	・歩道整備や駅直近の踏切横断長を短くすることにより、歩行者の安全性が確保され、駅へのアクセス機能が強化された。	・鉄道の高架化に伴う踏切除却の早期完成。
	バリアフリーの街づくりの推進	・駅施設や駅周辺施設のバリアフリー化工事を実施。	・バリアフリー基本構想策定にあたり、市民からいただいた意見を反映することが出来た。	・バリアフリー基本構想に基づく、鉄道高架化後の駅施設の整備を進める。
	耐震対策	・土木事務所の耐震化工事を実施。	・区域内における地域防災関連施設の耐震化工事が全て完了し、災害時の安全性が高まった。	
改善策 <ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくりの目標を達成するための改善策</li> <li>残された課題・新たな課題への対応策</li> <li>その他 必要な改善策</li> </ul>	鉄道の高架化と街づくり	・連続立体交差事業の推進及び周辺道路用地の買収。	・連続立体交差事業の進捗により、地域住民の街づくりへの関心が高まった。	・連続立体交差事業の早期完成。

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

# 都市再生整備計画(清算報告)

ほしかわ てんのうちょう ほどが やえきしゅうへん  
星川・天王町・保土ヶ谷駅周辺地区

かながわ よこはま  
神奈川県 横浜市

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜 <sup>ヨコハマシ</sup> 市	地区名	星川 <sup>ホシカワ</sup> ・天王町 <sup>テンノウチヨウ</sup> ・保土ヶ谷 <sup>ホドガヤ</sup> 駅 <sup>エキシニウヘン</sup> 周辺 <sup>チカ</sup> 地区	面積	366 ha
計画期間	平成 16 年度	～	平成 25 年度	交付期間	平成 16 年度	～	平成 20 年度

**目標**  
 鉄道の高架化、ペDESTリアンデッキや歩道の整備によるバリアフリー化が図られることによって、地域分断が解消し、区心部としての拠点性、地域の一体化が図られ、文化やコミュニティ施設の利用促進や新たな業務施設、商業施設等が立地し、活気ある商店街づくりを進めるなど、人であふれるにぎわいのある街を創る。  
 また、隣接する住宅市街地についても、バリアフリー化の取り組みやすべての人にやさしい街づくりを進めることにより、住商のバランスの取れた魅力ある地域拠点づくりを進める。

**目標設定の根拠**  
**まちづくりの経緯及び現況**  
 市総合計画や都市マスタープランにより保土ヶ谷区心部に位置づけ、公共施設や商業施設の集積を図ってきたが、鉄道・河川により分断された地域の北側に施設が集中しており、南側からのアクセス性が低く、高齢者や、障害者の利便性が低い。南側では工場移転跡地に業務系施設が立地する一方で、障害者地域活動ホームや保育所の建設が予定されているが、道路幅員が狭く、歩道も未整備であり、オープンスペースも少ないことから、安全な歩行者空間が確保されていない。  
 隣接する住宅市街地は、東海道線、相鉄線、横浜新道に囲われた丘陵地を形成している。アプローチ道路は高低差が大きい上狭く、歩道が十分に整備されていないため、大変歩きにくい。このような道路に取り付くように戸建て住宅地が形成されている。戦前に耕地整理が行われたが、戦後、急速に人口が増加したため、高齢化が進んでいる。このため、歩きやすい歩行者空間の整備が求められているが、既存の道路は谷を縫うように形成され高低差があるため、拡幅する余地がない。しかし、地区内は、多くの市営住宅や県営住宅、また、大規模な公園や企業施設が点在しているため、このような施設の整備に合わせて地域に貢献する基盤施設の整備が進められてきた。

**課題**  
 本地域は、商、工、住が混在した密集市街地で、鉄道・河川等により地域分断され、木造家屋が密集し、道路が狭く、車両や歩行者の安全な通行に支障を来しており、土地利用や機能集積が遅れ、一体的な街づくりが進んでいない。公共施設等の文化やコミュニティー施設の利用促進、新たな業務、商業施設の立地、活気ある商店街づくりなどに弊害となっている。  
 地域の高齢化が進んでいるため、高齢者が住みやすい地域ぐるみの高齢者対策が必要となっている。特に、高齢者のためのバリアフリー化の実現は重要である。また、地域活動を活性化させるために、世代間バランスの取れた住環境を提供することも必要となっている。このため、更新時期のきた、大規模施設や公的施設の建設時期に合わせ、地域に貢献する施設づくりを誘導していくことが求められる。  
 さらに、地区内には、区役所や消防署、土木事務所など災害時に最も重要な拠点となる施設や、地域防災拠点、物資集配拠点などの防災関連施設が集中しており、市民が安全で安心に暮らせる街づくりを進めるためには、これらの施設のうち耐震対策が必要な施設の耐震補強工事を実施する必要がある。

**将来ビジョン(中長期)**  
 相模鉄道線天王町～星川駅の連続立体交差化により、渋滞緩和や地域の一体化を図るとともに、道路や駅前広場の整備、駅や歩行者空間のバリアフリー化をすすめるなど、交通環境を体系的に整える。  
 斜面緑地の保全、帷子川・今井川におけるプロムナード整備、旧東海道の歴史の道としての整備、親水拠点や文化施設のネットワーク化などをすすめ、区心部の魅力を高める。  
 また、活気のある商店街づくり、文化やコミュニティ施設の活発な利用を促進するなど、生活に便利でにぎわいのあるまちをつくる。保土ヶ谷小学校跡地や未利用の公有地は、区心部のまちづくりに生かす形で活用する。  
 工場跡地や密集住宅地での市街地の更新を適切に誘導し、機能的にも景観的にも優れた良好なまちなみをつくる。  
 中高層集合住宅が混じる丘陵部の住宅地の狭隘道路の拡幅促進し、安全で緑の多い住環境を保全する。  
 災害への備えも整えた安全に暮らせる街づくりを進める。

**目標を定量化する指標**

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
バリアフリーの関心度	割合	高齢化に対応するために必要なバリアフリーへの関心度	バリアフリーの関心度を向上させることにより、バリアフリーの街づくりを推進する。	1	H16	2割増	H20
駅利用者数の増加	人/日	1日あたり駅乗降客数(天王町、星川、保土ヶ谷駅の合計)	駅利用者数が増加することは、歩行者系のサービスが促進され、にぎわいのあるまちづくりがされたことを意味する。	116,700	H15	122,500	H20
区民祭り等のイベント開催数	回/年	イベントの開催等により、地域住民の交流拠点として利用された回数。	地域の交流拠点として公園利用が図られることは、にぎわいのある街づくりに対する一つの指標となる。	—	—	2回/年	H20
地域防災関連施設の耐震化率	%	地域防災計画において、災害時施設利用計画に位置づけられた施設の耐震化及び建物の適正な保全状態が確保されている比率	公共施設の耐震化と建物の適正な保全状態を向上させることにより、災害時に避難施設や物資集配拠点などの使用が可能となるため、災害に強い街づくりを進めることとなる。	61	H18	80	H20

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通結節点事業による交通広場へのアクセス機能を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市道鶴ヶ峰天王町線整備</li> <li>新設道路整備</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地区内幹線道路の機能を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市道鶴ヶ峰天王町線(宮川橋)架替</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>だれもが安全で快適に移動できる歩行空間を形成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保土ヶ谷区心部快適道づくり事業(地域創造支援事業)</li> <li>市営桜ヶ丘アパート建替え事業(公営住宅整備事業)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>だれもが快適に生活できるバリアフリー化した市営住宅を整備するとともに、周辺住民も利用できる集会所や広場を整備する。</li> <li>住宅地内の歩行者空間を周辺地域のネットワークの一環として整備し、周辺地域の基盤施設の不備を補完する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営桜ヶ丘アパート建替え事業(公営住宅整備事業)</li> <li>市営桜ヶ丘アパート広場整備事業(地域生活基盤施設)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>公園緑地の整備により都市環境を改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>帷子川流域・東部地区緑地整備</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災計画において災害時利用計画に位置づけられている施設の耐震化及び建物の適正な保全状態を確保するための工事を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>桜丘高校 耐震対策事業(地域創造支援事業)</li> <li>保土ヶ谷公会堂・図書館 耐震対策その他事業(地域創造支援事業)</li> </ul>
<p>その他</p>	

